

3-6. まとめ（座位、立位、歩行の評価）

- ① 利用開始時には背面開放座位が取れるかを評価する。
- ② 足底（踵）を必ず床につける。
- ③ 車イスを使用しているときには座面にベニヤ板を敷く。
- ④ 深く座り込んでしまっているときには、バスマットを必要枚数入れ高さを調整する。
- ⑤ 前方にあるテーブルに肘をつかせる。
- ⑥ この姿勢で耐久性を評価する。
- ⑦ 肘をついて座位が保てたら、肘をテーブルについた状態で、前方に体重移動をさせる。
- ⑧ この姿勢で、臀部が持ち上がるかを評価する。
- ⑨ 臀部が持ち上がったら、次は手のひらをついた状態で立ち上がらせる。
- ⑩ 立ち上がった状態で、耐久性を評価する。
- ⑪ 立位が保持できたら、歩行器を使い歩かせる。

初診でクリニックを受診した患者さんには、以上のような評価をします。
その後、状態によって、座面の圧測定を行いクッション、マットを選定します。

基本動作のための座位を中心に書いてきました。
座るといことがいかに大切かご理解いただけたでしょうか。